

縣報 號 外 明治卅六年三月卅一日 和歌山縣

○公文

○和歌山縣令第三十一號

縣稅取縮規則左ノ通定メ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス

但明治三十五年三月縣令第三十三號ハ本令施行ノ日ヲ以テ廢止ス

明治三十六年三月三十日

和歌山縣知事 椿 基一 耶

縣稅取縮規則

第一條 縣稅營業稅雜稅ヲ納ムヘキ義務ノ生シタルモノニシテ左ノ各稅ニ納ムヘキモノ
ヲ除ク外即日其ノ地ノ郡市長ニ届出ヘシ但管外來漁者及住所ヲ管內ニ定メサル筏乘人ハ
便宜ノ地ノ郡市長ニ届出ヘシ

一 演劇稅、興行稅、遊技場稅、海面捕魚稅、海面採鹽稅、所得稅割、狩獵稅、鑛業鑛區稅割

第二條 前條ノ届ニハ業目、種別、住所、年齡及ヒ營業稅、雜稅稅課目課額ニ依ル課稅ノ
標準ニ該當スル事項ヲ記シ圖籍証書ヲ受有セル船舶コアツテハ其ノ証書寫ヲ添付スベシ
但シ年齡ハ男九條ニ依リ靈札ヲ受クルヲ要スルモノ、尙記載ヲ省クヲ得又住宅ト營業場
工業場、所在ヲ異ニスルモノハ其ノ營業場工業場場所所在地番ヲ記載スヘシ

外 明治三十六年三月三十一日 第三種郵便物費可

第三條 營業ノ開始又ハ物件ノ所有及異動ニ係ル届出ハ總テ口頭ヲ以テ届出タルヲ得但シ
口頭届出ヲ爲サントスルモノハ所轄市町村役場ニ就キ事實ヲ申立口頭届簿ニ登録ヲ受ケ
之ニ捺印スヘシ

第四條 船舶ヲ所有スル者ハ定額場ヲ定メ第一條第二條ニ依リ其定額場所所在地ノ郡市長ニ
届出ベシ船体ヲ變更シタルトキ亦同シ

第五條 馬車荷車人力車ヲ所有スル者コシテ警察署及ヒ警察分署ニ於テ車体ノ檢査ヲ受ケ
ルヲ要スルモノハ檢査ヲ受ケタル上即日郡市長ニ届出ヘキモノトス但シ市ニ於テハ届出
ヲ要セス

自用馬車人力車及荷積車ニシテ荷臺坪數八坪未満ノ小車ハ郡市長ニ届出ト全時ニ郡市役
所ニ於テ車体ニ捺印ヲ受クヘシ

第六條 船ノ間數ヲ測定スルハ軸ヨリ艦ニ至ル内部ノ總長ヲ測定シ其間數一間ニ滿タサル
モノハ一間トシ一間以上ハ間位ニ止メ端數ハ切捨トス

第七條 私人建物稅ヲ納ムヘキモノハ届出ニハ左ノ事項ヲ記スヘシ
一 法人ノ名稱及ヒ營業ノ種目

二 建物所在地地名番

三 土地并建物坪數 家屋、倉庫、製造場、店舗其他付屬建物ノ坪數ヲ

四 建物賃貸價格 區別シテ記載スヘシ

建物賃賃價格ハ國稅營業稅標準ノ價格ヲ記シ國稅ヲ納メサルモノニアリテハ營業戶
 地建物ノ借料ニ相當スルモノヲ以テ建物ノ賃賃價格トシ左ノ各號ニ依リ賃賃價格ヲ算定
 スヘシ但シ住居ニ供スル建物其ノ他直接ニ營業ニ使用セサルモノト雖モ全一區域内ニア
 リテハ法人ノ所有又ハ借入ニ屬スルモノハ總テ算入スヘシ
 一法人ノ借入ニ屬スル建物ハ何等ノ名義ヲ用ユルニ拘ヘテ土地建物ノ賃借上借主ヨリ賃
 主ニ支拂フモノヲ以テ建物賃賃價格トス
 二法人ノ所有ニ屬スル建物若クハ無償借入ノ建物ニアリテハ近傍借家ノ借料ニ照準シテ建
 物賃賃價格ヲ定ムヘシ但シ近傍ニ照準スヘキ借家ナキトキハ其土地建物ノ時價ヲ各別ニ
 算定シ土地ハ其百分ノ五建物ハ百分ノ十ヲ以テ建物賃賃價格トス
 第八條 左ノ各目ニ該當スルモノハ所轄郡市役所ニ於テ標札ヲ受ケ住宅、店舗、營業場、工
 業場等戶外ノ見易キ位置ニ掲ケヘシ
 一商業、工業(職工ヲ除ク)料理屋、待合茶屋、芝居茶屋、遊船宿、飲食店、湯屋、理髮人、遊藝
 師匠、市場、(臨時ニ開ク)水草
 藝妓置屋ニ於テハ藝妓ノ氏名ヲ記シタル票札ヲ製シ之ヲ前項標札ノ傍ニ掲ケヘシ
 第九條 左ノ各號ノ業ヲ營ム者及物件所有者ハ第一條ノ届出ヲ爲シタル上郡市役所ニ於テ
 標札ヲ受クヘシ但シ營業主ト全居スル家族雇人ヲシテ行商セシムル者ハ營業主ニ於テ標
 札ヲ受クヘシ
 一行商、職工、遊藝家、相撲、行司、俳優、藝妓、酌婦、幫間、乘馬、五十石未満ノ船、自轉車、死

外 明治三十六年三月三十一日 第三種郵便物認可 二

牛馬取扱人、管水來漁、海圖遊漁、取具、鮎、鰯漁、青野替、役乘
 一工業者(職工ノ外)理髮人、遊藝師匠等ニシテ出稼スルモノ及露店ヲ開ク者
 縣稅賦課規則ニ依リ除稅ニ係ル左記營業者及物件所有者ハ郡市長ニ届出除稅標札又ハ免
 稅烙印ヲ受クヘシ但シ人糞尿及塵芥運搬專用車ハ車蓋左側ニ人糞尿又ハ塵芥運搬專用車ト
 大書スヘシ
 一職工ニシテ廢疾不具ノ者
 一職工役乘ノ徒弟又ハ見習中ノ者
 一遊藝家人ニシテ廢疾又ハ年齡滿十五年末滿六十歲以上ノ者
 一人糞尿及塵芥運搬專用車
 標札ハ各自之ヲ携帶スヘシ但シ乘馬ハ其ノ馬ニ自轉車ハ其ノ車ニ緊付シ小船ハ船ノ内郡
 釘付スヘシ
 第十條 市場(臨時ニ開ク古)ニシテ日稅ヲ納ムヘキモノハ開業前日ニ郡市長ニ届出ヘシ
 但シ開業日數ヲ豫定シ該稅額ヲ一時ニ豫納スルヲ得若シ豫定ノ日數ノ伸縮又ハ課稅標準
 ニ異動ヲ生シタルトキハ其時々届出ヘシ
 第十一條 屠畜ヲ爲ス者ハ屠殺ノ前日其ノ獸名及頭數ヲ帳簿ニ登記シ市町村長ニ差出シ其
 帳簿ニ捺印ヲ受ケ納稅ノ上所轄警察署又ハ分署ニ屠殺届出ノ際其ノ証ヲ示スヘシ
 第十二條 左ノ各號ニ該當スルモノハ即日郡市長ニ届出ヘシ但シ他郡市ニ營業又ハ物件ヲ
 移轉シタル場合ハ双方ノ郡市長ニ届出ヘシ

一 廢業死亡物件ノ亡失廢敗改氏名
 二 賦稅賦課規則ニ依リ除稅ニ該當スル事由ノ生シタルトキ又ハ消滅シタルトキ及ヒ圖稅管
 業稅法ニ依リ課稅標準ノ届出ヲ爲シタルトキ
 三 課稅標準業目種別ノ異動増減
 四 同一郡市内又ハ他郡市他府縣へ營業又ハ物件ノ移轉
 營業又ハ物件ヲ讓受ケ納稅義務ヲ繼承スル場合ハ双方速習シテ届出ヘシ
 納稅義務ヲ負フモノ死亡シタルトキ其ノ遺族又ハ親戚ヨリ届出ヘシ
 第十三條 前條ニ依リ納稅義務ノ消滅シタルモノ及除稅ノ事由消滅ニ歸シタルモノハ標札
 又ハ標札ヲ返納シ船中ニシテ捺印ヲ受ケアルモノハ其部分ヲ切取リ返納シ又ハ消印ヲ受
 ケ改氏名其ノ他標札標札ノ異動ハ書換テ受クヘシ
 他郡市へ移轉シタルモノハ前ニ受クタル標札標札ハ之ヲ返納シ移轉地ノ郡市役所ニ於テ
 更ニ之ヲ受クヘシ
 第十四條 標札標札ハ賣渡貸渡若ハ讓渡ヲ爲スヲ得ス
 標札標札ヲ亡失毀損シ又ハ捺印ノ不判明トナリタルトキ其ノ事由ヲ届出標札標札ノ再渡
 又ハ再捺印ヲ受クヘシ
 第十五條 職工、理髮人、遊藝稼人、相撲、行司、俳優、幫間、藝妓、酌婦、夜乘及ヒ行商其ノ他
 出稼ヲナスモノハ其ノ市町村内ニ於テ納稅引受人ヲ定メ速習ヲ以テ納稅地ノ市町村長ニ
 届出ヘシ

外 明治三十六年三月三十一日 第三種郵便物認可 三

物件營業場工業場及船舶定置場所在地ノ市町村内ニ現住セサル者ハ前項ニ依リ其ノ物件
 營業場船舶定置場所在地ノ市町村内ニ於テ納稅引受人ヲ定メ速習ヲ以テ市町村長ニ届出
 ヘシ納稅引受人死亡若ハ他市町村へ轉居シタルトキハ更ニ納稅引受人ヲ定メ届出ヘシ
 第十六條 府縣制第五百五條ニ依リ納稅義務ノ生シタル者ハ納稅義務發生ノ初ニ遡リ該期間
 ノ稅額ヲ一時ニ納ムヘキモノトス
 第十七條 遊藝師匠、藝妓、酌婦ニシテ下級地ニ於テ標札ヲ受ケタル者一時上級地ニ到リ
 營業シ若ハ下級地上級地ヲ通シテ營業セントスル者ハ上級地ノ標札ヲ受クヘシ
 第十八條 本則ニ依リ郡長ニ差出スヘキ届ハ總テ町村長ヲ經由スヘシ但シ居住地外ニ於テ
 業ヲナスモノ若ハ物件ヲ所有スルモノハ其ノ地ノ市町村長ヲ經由スヘシ
 第十九條 第一條第九條第十條第十一條第十二條第三項第三號ノ届出ヲ爲ス若ハ虛偽ノ届
 出ヲ爲シ又ハ第五條ニヨリ捺印ヲ受ケタルモノ及第九條第十三條第十四條第一項第十七
 條ニ違背シタル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 第二十條 此ノ規則ニ依リ下付スル標札標札及ヒ船車捺印等ハ左ノ様式ニ據ル
 第一標札様式

木 第 號
 營業地何々 郡市町村大字番地 經五寸
 業 目 田 氏 名
 製 明治 年 月 日 横三寸

一住居地ト營業地ト異ナルモノハ氏名ノ冒頭ニ營業地名ヲ記入ス
 一商業中國技藝屋ハ業目ニ屬せ置屋ト表記ス

第二號札様式

木 第 號
 小册 函長何間 定額揚何々
 明治 年 月 日 何那市町村大字 番地 氏 名
 何那市町村 寸法前ニ同

紙 何那 號
 縣稅何々業鑑札
 明治 年 月 日 何那市町村大字 番地 氏 名
 和歌山縣那市役所
 横三寸五分

製 外 明治三十六年三月三十一日 第三種郵便物認可 四

木 何那 號
 縣稅何々業鑑札
 明治 年 月 日 何那市町村大字 番地 氏 名
 何那市町村大字番地 横三寸
 何那市役所

一木製鑑札ハ職工乘馬自轉車海面遊漁管外來漁海面取貝河川鮎漁鰻漁筏乘及行商ニ限リ付
 與シ其他ハ紙製鑑札ヲ付與ス
 一寄留者又ハ管外ノ者ハ原籍地ヲ併記ス
 一居住地ト營業店舖ト異ナルモノ又ハ職技的婦ノ鑑札ニハ氏名ノ冒頭ニ營業地名ヲ記入ス
 一職工ハ業目ノ左傍ニ職名記入シ職技遊藝師匠(出稼スルモノ)遊藝師人ハ其職名鮎鰻漁ハ
 其河川ヲ記入シ來漁者ハ其ノ地名又ハ寄港地名ヲ鑑札圖氏名ノ冒頭ニ記入ス
 一箱體稅其ノ額目ヲ鑑札圖ニ記載スルモノトス

木 何那市町村大字番地
 何々業 氏 名
 除稅鑑札 生年月日 寸法
 明治 年 月 日 前ニ
 何那市役所

一 徒弟又ハ見習中ノ者ハ營業者例某ノ徒弟又ハ見習ト配スヘシ

一 遊藝稼人コシテ十五歳未満ノモノハ其裏面ニ有効期限ヲ記入スヘシ

第三捺印様式

和歌山縣捺印

縦二寸二分
横一寸

免 税

縦二寸二分
横一寸三分

消

縦一寸六分
横一寸一分

一 捺印ハ總テ烙印トシ車輪ハ車蓋ノ右側ニ烙印シ自用人力車ハ脱込ノ前面ニ烙印ス
第四齒枝票札様式

木 札

齒 枝

氏 名
又ハ齒名

縦凡五寸横巾適宜

一 二名以上ヲ寄寓セシムル者ハ氏名又ハ齒名ヲ連記スルヲ得

和歌山縣訓令第三十三號

郡 市 役 所
 審 察 分 署
 町 村 役 場

縣稅取扱手續左之通定、明治三十六年四月一日ヨリ施行ス
 但明治三十一年四月訓令第百九號及明治三十二年二月訓令第九十四號ハ本訓令施行ノ日
 ス廢止ス

明治三十六年三月卅日

和歌山縣知事 棉 葉 一 郎

縣稅取扱手續

- 第一條 縣稅取扱規則ニ依リ市町村長ニ於テ縣稅營業稅雜稅納ムベキ者及除稅ニ係ルモ
 ノ、届出テ受ケタルトキハ事實ヲ調査シ課稅基帳ニ記入スベシ
 町村長ハ前項基帳ノ記入ノ了ラタル時ハ直ニ郡長ニ進達スベシ
 第二條 市町村稅場ニ別紙様式ニ依リ口頭届書ヲ備置キ口頭届出ヲ爲スモハアル時ハ該書
 ニ届出事項ヲ記入シ本人ニ讀聞セタル上之ニ捺印セシムベシ
 町村長ハ前項届出テ受ケタル時ハ事實調査ノト直ニ郡長ニ申報スベシ
 第三條 五十石未満ノ小船ハ所有者ノ届出ニ依リ市町村長ハ之ヲ検査シ問數ヲ査定スベシ
 町村長ハ前項届書ノ欄外ニ検査済ト朱記シ口頭届出ニ係ルモノハ其ノ申報書ニ記載シ之ニ

號 外

明治三十六年三月三十一日

第三郡郵便物認可

六終

可認物便郵種三第日八月五年三十三治明

認印ノ上進達スベシ但シ問數ニ相違アルトキハ査定問數ヲ付記スベシ
 第四條 警察署及分署ニ於テ縣稅營業稅雜稅課目課額ニ掲記アル營業又ハ物件ノ使用ヲ認
 許シタルトキハ課稅ニ必要ナル事項ヲ記載シ直ニ所轄郡市役所ニ通報スベシ但シ異動アリ
 タルトキ亦同シ
 第五條 演劇興行ノ認許ヲ受ケタルモノアルトハ其ノ開演前町村長ニ於テ假ニ税金ヲ豫納セ
 シメ郡長ニ申報スベシ第六條 口頭届出申報書式ハ郡長ニ於テ進達之レヲ定ムベシ

(別紙) 口頭届書様式

營業 物件	種別課稅標準届出年月日住	所 生 年 月 日	姓 名	甲 檢 査 月 日	事 故	郡 長 へ 報 告 年 月 日

(毎月三日六日九日十二日十五日十八日二十一日二十四日二十七日三十日十回發行)
 明治三十六年三月三十日印刷
 和歌山縣 印刷所
 和歌山市十二番丁三番地